

4月の安全運転のポイント

平成24年4月号

安全な運転をするためには、運転席からは見えない死角に隠されている危険を予測することが重要なポイントとなります。死角にはさまざまなものがありますが、今回は、車の構造上の死角と看板などの工作物や駐車車両が作る死角について考えてみることにしましょう。



車の構造上の死角

車の構造上の死角には、主なものとして「サイドミラー（ドアミラー）の死角」、「車の前後の死角」、「フロントピラーの死角」があります（図1）。

フロントガラスの両側の柱部分

サイドミラーの死角

側方や後方を確認するときはサイドミラーを利用しますが、車の左右なめ後方にはサイドミラーに映らない部分があります。特に二輪車は車体が小さいために死角に入りやすく、右左折時や進路変更時に見落とししてしまう危険があります。右左折時や進路変更時は、サイドミラーだけに頼らず目視で確認するようにしましょう。

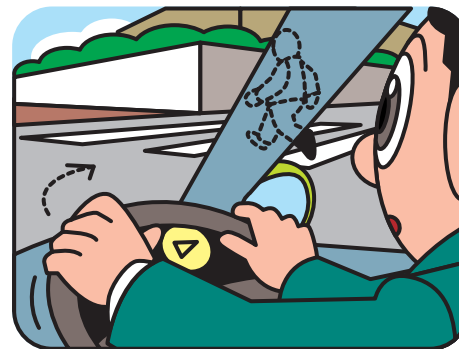
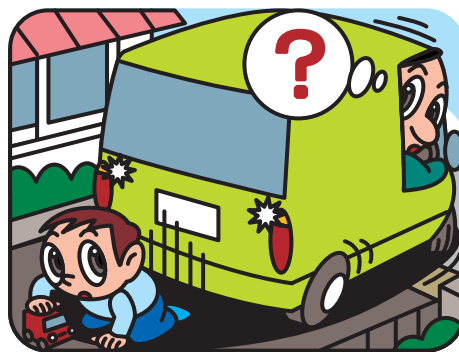
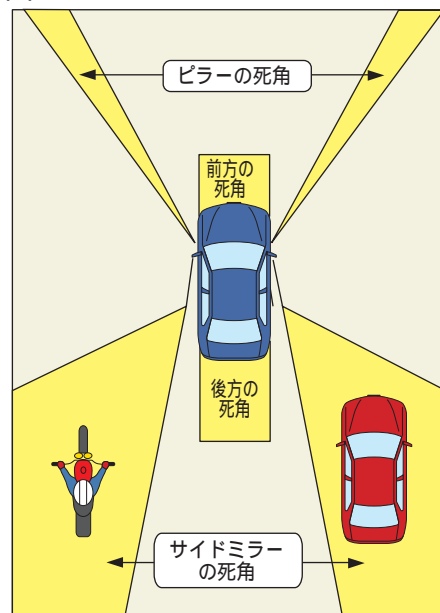
車の前後の死角

車の前後にも死角があり、後方は前方より死角が大きくなります。特にワンボックスカーのように車高の高い車は、死角がより大きくなりますから、そこに隠れている子どもの発見が遅れてしまうことがあります。車に乗り込む前には車の周囲を一周して安全を確認しましょう。また、バックするときは、バックモニターが付いている場合でも、それに頼り切るのではなく、目視で後方の確認を行いましょう。

フロントピラーの死角

フロントピラーの幅は狭いのですが、車からの距離が離れると歩行者や二輪車を見えなくするほどの大きな死角になります。そのため右左折時に直進してくる二輪車を隠したり、横断歩道上の歩行者を隠してしまうことがありますから、フロントピラーの死角を意識し、きちんと確認するようにしましょう。

図1





工作物や駐車車両が作る死角

看板や植込みなどが作る死角

道路には看板や植込みなどさまざまな工作物がありますが、それらが死角を作ることがあります。例えば、駐車場と歩道の間で看板が設置されている場合、看板が歩道を通行してくる自転車や歩行者を隠してしまうことがあります（図2）。

車道と歩道の間に植込みが設置されている場合には、その陰に子どもが隠されてしまうことがあり、特に交差点の右折時や左折時には、子どもの発見が遅れて事故につながるおそれがあります（図3）。

看板や植込みなどが死角を作っている場所では、一時停止や徐行をして必ず安全確認を行いましょう。

図2

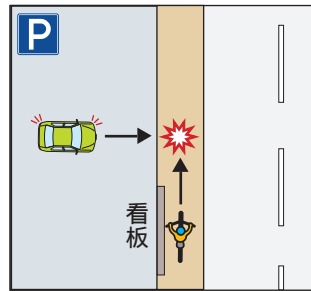
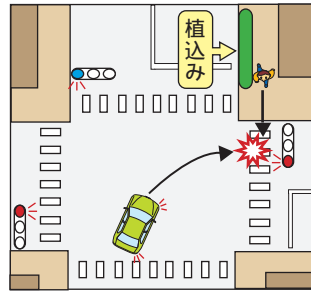


図3

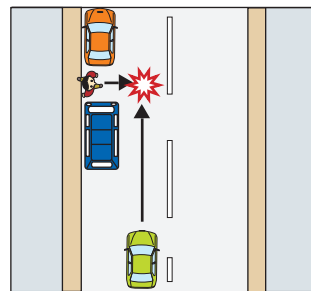


路上駐車車両が作る死角

路上の駐車車両も死角を作ります。駐車車両がトラックやワンボックスカーの場合は、その陰にいる歩行者や自転車はほとんど隠されてしまいますから、発見が遅れがちになります（図4）。また、乗用車の場合でも、子どもは隠されてしまうことがあります。

商店街や学校や病院、公園付近など歩行者や自転車の多い場所ではあらかじめ速度を落とすとともに、駐車車両があるときは、歩行者や自転車の飛び出しに備えて、いつでも停止できる速度で進行しましょう。

図4

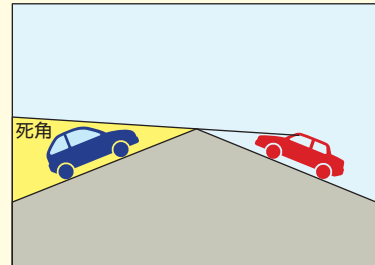


坂の頂上の死角に注意！！

上り坂では頂上の向こう側が死角となり、対向車の発見が遅れます（図5）。特にセンターラインのない坂道の場合には、道路の中央付近を走行していると対向車と衝突する危険がありますから、道路の左側を走行するようにしましょう。

また、坂の頂上付近では、徐行が義務づけられていますから、必ず徐行しましょう。

図5



「ご相談・お申込先」